

学校関係者評価委員会

2025年度 第1回議事録

1. 日時・場所

- 日時：2025年11月12日(水)18:00～20:00
- 場所：修成建設専門学校1号棟4階146教室

2. 出席者

【委員】（敬称略）

- 藤田晴樹（株式会社ジェイネット代表取締役）※委員長
- 市岡 武（株式会社福本設計相談役）
- 大槻憲章（NPO 法人おおさか緑と樹木の診断協会理事長）
- 壺山和憲（壺山建設株式会社取締役社長）
- 田中文雄（大和田振興町内会会長）
- 丸山 徹（卒業生保護者）
- 相賀 勝（修友会会長）
- 欠席：若浦直樹（学校法人神港学園神港学園高等学校校長）

【オブザーバー（学内教職員）】

- 山下裕貴（学校法人修成学園理事長）
- 見邨佳朗（校長）
- 谷川博康（学生相談室室長）
- 鍵谷啓太（副校長兼空間デザイン学科科長）
- 野瀬孝男（副校長兼ガーデンデザイン学科科長）
- 堤下隆司（学校法人修成学園顧問）
- 塩田久及（事務局長）
- 亀井哲男（経営戦略室室長）
- 藤本喜代志（事務局長補佐）

3. 配布資料

- 資料 1-1：2025年度第1回委員会議事次第
- 資料 1-2：委員一覧表
- 資料 1-3：学校自己評価報告書採点用紙
- その他：学校自己評価報告書、学校案内、就職情報冊子等

4. 議事内容

(1) 開会・挨拶・委員選任

- 理事長挨拶：山下理事長より、委員会開催への感謝と、忌憚のない意見交換の要望が述べられた。
- 議事録作成について：今回より音声認識技術（STT）を試行導入する旨の説明が行われた。
- 委員長選任：委員の互選により、藤田委員が委員長に選任された。

(2) 各分野からの報告

①学校全体・重点目標（報告：塩田事務局長）

- 重点目標：「学生一人ひとりの未来のため教職員一同が寄り添い、考え、共に行動する」を設定。
- 学生支援：フォローアップカルテ（年4回面談）による成長記録、キャリアマップの活用、SDGs 学習の推進について報告。
- 留学生対応：留学生の増加に伴い、日本語教育機関との連携を強化する。

②建築分野（報告：鍵谷副校長）

- 建築学科：教育活動・学習成果ともに概ね良好。進路決定率は98.2%（就職53.7%、進学40.9%）と高水準。在学中の資格取得率向上が課題であり、直前講習等を充実させる。
- 建築デジタルデザイン学科：進路決定率100%。BIM活用や生成AI導入を進め、デジタルとアナログの融合を目指す。
- 空間デザイン学科：進路決定率100%。業界団体との連携演習やインテリア資格塾が機能している。
- 建築施工学科：2級建築施工管理技士（一次）の在学中全員合格を最優先目標とし、建築DXの理解促進に努める。
- 専科（建築士科）：二級建築士科は学科合格率93.48%。一級建築士科は総合合格率15.4%で全国平均を上回る成果を上げている。

③土木・造園分野（報告：野瀬副校長）

- 土木工学科：進路決定率100%。2級土木施工管理技士（一次）全員合格を目標とし、ドローン講習も検討中。
- 建設エンジニア学科：就職率100%。施工・安全・品質管理に特化し、キャタピラー教習所と連携した技能習得を実施。
- ガーデンデザイン学科：就職内定率100%。地域連携（西淀川区緑化等）を実践し、熱中

症対策を徹底して実習を行っている。

④事務局報告（報告：塩田事務局長）

- 教育環境・学生支援：学生相談室に公認心理師を配置し、メンタルケアや留学生支援を強化。施設設備のLED化等を計画的に実施。
- 財務・社会貢献：財務基盤は安定しており、法令遵守も徹底。大阪・関西万博関連イベントへの参加（大阪ブライダル専門学校等3校と協力）や、地域まちづくりへの提案を実施している。

(3) 意見交換

- 業界動向と法改正の影響
 - 藤田委員長より、2024年7月の法改正（建築基準法・省エネ法）による確認検査機関での審査遅延について指摘があった。着工・工期・コストへの影響や、学生の卒業製作・就職後の実務への懸念が示された。
- 人材育成と現場の課題
 - 建設現場における監督不足や外注化によるチェック機能の低下について意見が出された。若手に対する現場知識と品質意識の教育の必要性が共有され、委員会として今後この教育を強化する方針が確認された。
 - 大槻委員より、公共分野の緑化行政における連携不足と、「緑もわかる設計人材」育成の重要性が提言された。
- 設備設計および新たな職域
 - 設備設計の人材不足が深刻であり、脱炭素・ICT化により重要性が増していることが議論された。学生に対し、希少性と高待遇を含めた設備設計の魅力を周知する必要があるとの意見があった。
 - 学校側より、企業講義やBIM実践を通じて、設備設計の実務者を教壇に招くことを確認する旨の回答があった。
- 留学生と多様性
 - 外国人留学生について、現場からは「非常に優秀である」との評価がある一方、日本独自の品質・安全基準（日本スタンダード）の教育研修が必要であるとの意見が出された。
 - 山下理事長より、留学生数が増加（約120名）しており、企業奨学金制度などを活用して育成を進める方針が示された。
- リカレント教育・地域連携
 - 修成教育研究所にて、卒業生や一般向けに資格対策講座（建築士、施工管理技士等）を開講し、企業のリスキリング需要に込んでいることが報告された。
 - 大阪・関西万博や横浜花博への関与について検討を進めている旨が共有された。

(4) 決定事項

【今後の取り組み】

- 企業連携：企業との意見交換を積極的に実施し、教育内容を更新する。
- 設備分野：設備設計の実務者を教壇に招く講義を具体化する。
- 全委員：「学校自己評価報告書採点用紙」の提出（11月21日まで）。

(5) その他・次回予定

- 採点用紙の提出：見邨校長より、本会議の内容を踏まえた「自己評価報告書」の評価依頼があった（提出期限：11月21日）。
- 次回開催：
 - 日時：2026年2月12日(木)18:00～
 - 場所：修成建設専門学校 146 教室

以上